

# 新小岩教会の世界伝道

2021年8月7日 牧師 川口義雄

## 1.世界伝道によって

**誕生** 1950年、新小岩バプテスト教会は伝道を開始しました。

少人数の力のない教会でした。けれども南部バプテスト連盟のロティムーン献金によって、  
現在地を買い、会堂を建築することができました。

私は、新小岩教会がどのような献金によって始まったのか知りませんでしたが、  
それはロティムーン献金と言う「世界伝道献金」によるものであったと後で知りました。

**胎動** 伝道開始当初より、日本バプテスト連盟の推進する、国外伝道運動に参加しました。

けれどもそれは、「助け合い」のような運動であり、いろいろな活動の中眠りのない程度の活動  
として行いました。推進母体は婦人会、今の女性会です。

**視察** 川口義雄はその後、南部バプテスト連盟の教会にインターンとして研修しました。

二年間の研修は教会教育と教会音楽のミニストリーでした。けれどもそれを背後で導き、財  
政的支援をしたのは世界伝道のミニストリーでした。

研修した教会では、年間最大のプログラムは「世界伝道サンデー」でした。子供から大人まで、  
すべての会員が参加して、世界伝道を学び経験する行事でした。そしてその教会では数十  
人もの宣教師を支援していました。

連盟主導の世界伝道と教会主導の世界伝道の違いをまざまざと見せられました。

そして新小岩教会のためにささげられたロティムーン献金はこのような働きから与えられたこ  
とを知ったのです。

## 2.新小岩教会での開拓

1987年に川口義雄は教育兼音楽牧師として新小岩教会に就任しました。

米国で学んだことの一つは世界伝道です。

これを教会教育で、また、教会音楽で推進しました。

1990年ころより、世界伝道ミニストリーを開拓しました。

### ・世界伝道は新小岩教会の基礎

世界伝道は成長した教会がやること、と私たちは考えていました。

ところが、世界伝道は初代教会の時から、つまり教会がまだ弱く若い時から始まったことです。

ですから世界伝道は現在の新小岩教会が最優先して行う活動なのです。

### ・献身者の養成

それまでは婦人会主体でした。けれども女性だけの働きではありません。男性にも献身を求め、

世界伝道に参加するよう励ましました。

・世界伝道プログラム開催

毎月一度「世界伝道祈禱会」を開催し、年間行事として秋に「世界伝道サンデー」を開催しました。

世界で働く宣教師を講師として招き、世界伝道の具体的な報告を聞き、体験しました。

また、世界伝道隊を派遣しました。

ミャンマー、韓国、米国、シンガポール、中国、カンボジア、ブラジルなどに伝道隊を派遣し、現地教会を助けました。このような活動を通して、OMF、ウイクリフ聖書翻訳協会、アンテオケ伝道協会などの宣教団体との協力関係が結ばれました。

現在、ミャンマー宣教師 松元緑 荒川康子 ブラジル宣教師 カセビ、カンボジア宣教師 今村夫妻 アルゼンチン宣教師 在原夫妻 タイ宣教師 有澤夫妻 イギリス宣教師 相馬氏 インドネシア宣教師 野口夫妻を支援しています。

### 3.世界伝道の勘所

・日本の利点

現在日本は多くの利点を持っています。

自由 日本から外国に行くのがとても自由です。世界伝道目的の海外旅行が容易です。

経済 日本の通貨「円」の力が強くなりました。

情報 インターネットの普及により、海外の情報を得ることが簡単になりました。

希望 今、日本バプテスト連盟は困難に直面しています。困難であり、同時に希望があります。

今までの方法ではない、新しい方法をとることができるからです。

新小岩教会がしたように、「世界伝道」を教会の本分として実際的な活動を始めることです。

教会の本分として世界伝道に取り組むときに、初代教会がそうであったように

私たちの教会にも新しい力が与えられるからです。

### 4.